

中国茶にも及んでいる 地球温暖化の影響

暦と深く関わっている 中国茶づくり

中国で最も重要で大きなイベントである春節が終わりました。毎年、春節の長期連休を過ぎると、中国茶の産地では新茶に向けての準備が始まります。

中国茶づくりは、中国の暦と密接な関係があります。中国茶において重要視されるのは収穫時期で、暦上で季節の指標を示す二十四節気がめやすになっっています。そのひとつが清明節（毎年4月5日前後）です。この清明節より前に摘んだ新芽で作ったお茶は「明前茶」と呼ばれ、一番茶ならではの香りや甘みのよさを持ち、高級品とされています。

収穫時期による名称、 味わいや品質の違い

例えば、中国緑茶の代表的な銘茶のひとつに、浙江省杭州市を産



社長 張文彬
中国茶業株式会
山茶業株式会
明山茶業株式会
取締役 張文彬

1988年上海より来店
日名門中国料理店現
等に勤務を経て高級評
師、中国茶生学高級評
員。特技は卓球、イラ
は大戸屋の魚定食。

地とする「龍井茶」があります。水色、味、香り、形のすべてに優れていることから「四絶」と評され、清の時代から皇帝への献上茶として使われていた、非常に長い歴史をもつお茶です。茶葉を釜に押しつけるように炒って乾燥させるため、独特の扁平な形をしています。

「龍井茶」の中でも、清明節の前に作ったものは「明前龍井茶」と呼ばれます。美しい緑の水色で、香ばしい豆のような香り、やわらかな甘み、喉ごしのバランスがよく、特別な高級品として高値で販売されます。

清明節を過ぎた後は、穀雨節（毎年4月20日前後）をめやすとして、その前に摘んだ茶葉で作った二番茶を「雨前茶」といいます。「龍井茶」にも「雨前龍井茶」と呼ばれるものがあります。茶葉は太陽の光を浴びる時間が長くなることで苦みや渋みのもとになるタンニ

ンが増えるため、味わいがしつかりとしているのが特徴です。しかしながら、やはり一番茶の「明前茶」よりも全体的に品質は劣り、販売価格も下がります。そして、穀雨節以降に作ったものは「雨後茶」。「龍井茶」でも「雨後茶」の品質は平均的なレベルとされ、相応なお手ごろ価格となります。

お茶の入荷時期が 早まっている!?

弊社が輸入している「明前龍井茶」の場合、日本に到着するのは一番早くても4月10日頃でした。しかし、昨年は3月25日頃と、半月以上も早い入荷となりました。中国の生産者に事情を確認すると、産地の気温が例年より高かったため、茶葉の成長も早いペースで進行。4月初旬からの収穫では、新芽が成長し過ぎて品質に影響してしまいうため、製茶時期を前倒しせざるを得なかったとのことでした。

同様の現象は、「龍井茶」の産地だけでなく、ジャスミン茶の産地でも起こっています。ジャスミン茶といえば、これまでジャスミンの花が咲く頃に合わせて、7月が生産のピークでした。ところが、地球温暖化の影響を受けて、ジャスミンの開花時期が早期化。近年では、5月にはお茶を仕上げる地域が増え、新茶の出荷も早くなっています。

現地のお茶農家にも聞いたところ、やはり地球温暖化が中国茶の製茶時期に相当な影響を及ぼし始めているそう。烏龍茶、プーアル茶なども、製茶時期が前にずれてきているようです。我々はこれから、お客様に最高品質の中国茶を提供するため、産地の情報をより正確に調査する、輸入するタイミングを適切に見極めるなど、より一層の努力を重ねてまいります。

